

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
・理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念、基本方針を踏まえた上で、グループホーム特性を考慮した独自の理念を掲げ、その理念を念頭に年次事業計画を策定し、管理者と職員は日々の業務の中で理念を共有し実践にむけて取り組んでいる。	法人の基本理念を踏まえた上で、ホーム独自の理念「家庭的な雰囲気・居心地のいい空間・その人の可能性を見出そう・地域でイキイキ」を掲げ、職員で共有され、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	アムリタ開設当初より、町内会入会についての要請を継続した結果、23年度より、法人会員として入会を認められる。また地元町内会等が開催する運動会や盆おどりに参加し、地域交流を図っている。なお毎年10月に開催する「アムリタ祭」には地域住民の皆さんに多数参加して頂いている。	ホームの行事に地域の方が参加されたり、地域の行事や地域の公民館で開催される講座に参加し、積極的に地域との交流を図られています。又、自治会にも入られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加盟し、協議会を通じて泉佐野市社協地域包括支援センターからの依頼で認知症サポーター養成講座の講師役を務めるなど、事業所の機能を発揮している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、利用者や家族も毎回交替で参加していただき、活発な意見交換を行っている。また利用者や家族からの改善に向けた意見を全職員に周知するとともに、平成26年度は一般職員による運営推進会議の議案考案を促し意識向上を図っている。	利用者・家族・民生委員・地域包括など参加され2カ月に1回開催されています。事業所からの報告だけでなく、参加者から質問・意見・要望を受けサービスの向上に活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議における行政関係者の参加に加えて、地域包括支援センターが開催している認知症カフェの運営協力を行っている。また、必要に応じて地域包括支援センターや市の職員との情報交換や交流を図っている。	市の職員とは運営推進会議だけではなく、様々な機会を通して関わりをもたれています。又、地域包括支援センターが開催している認知症カフェを手伝い、協力関係を築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	複合施設の3階にホームがある為、そこに通じるエレベーターは暗証番号表示の上、電子ロックされている。鍵を掛けない暮らしについて、行動制限廃止並びリスクマネジメントの観点から職員間で話し合いを行っている。また事業所として「身体拘束の排除の取り組み」に関して定めた理念、方針等がある。	身体拘束について、マニュアルがあり、研修も行なっています。エレベーターはロックされていますが、ホーム内は自由に行き来できるようになっており、テラスに出られる方や、エレベーターに乗ろうとされている方がおられたら、職員がついて下に降りるなど、身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の人権研修において、高齢者虐待防止を盛り込み、DVD観賞、グループワーク研修を通じて虐待防止について学んでいる。また、日常の介護について振り返る研修を行い、業務においても注意を払っている。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設研修として、権利擁護、成年後見制度の研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階より自宅を訪問し面接を行ったり、グループホームアムリタでの生活を見学して頂き納得してから、書面による説明を経て、契約に移行している。退所時は本人及び家族が方針を決定するための相談をし、納得されて退所している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な要望の聞き取りから、意見箱の設置、家族交流会での意見交流などの機会を設けている。運営推進会議においては本人と家族に参加して頂き、外部に意見を発信していただけるように進行し、活発な意見交換がみられている。	面会時に職員が積極的に話しかけ何でも言ってもらえる関係作りに努めています。家族会を年に2回されており、食事会や、意見交換の場を設けられ、意見や要望を運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	月1回のグループホーム会議で意見を聞くとともに、年次の事業計画策定にあたっては職員の意見を聞きながら立案するとともに、担当制で計画を遂行し運営参画意識をもってもらっている。	月に一回グループホーム会議で、職員から意見を聞く機会を作られています。日頃から何でも話せる関係作りがされており、意見があれば運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度導入により、職員の努力が待遇に反映される仕組みとなっている。また、内部、外部研修参加の機会を設け、職員個々のスキルアップを図るなど向上心に応えている。なお、代表者は近隣ホームの待遇面の情報収集を行い向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度における人事考課表の活用や個別面接等において職員個々の力量を把握し、個人が目標説明をし、やりがいや達成感をもてる機会を与えている。また職員一人ひとりの力量に適した法人内外の研修を受ける機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平成23年度より景佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会の会長を2年間務め、中心となってその活動が事業者間の質の向上に繋がるよう進めてきた。またグループ内の他グループホームとの合同行事を実施している。加えて、グループホーム協議会主催の相互研修に参加し、事業者間のサービスの質の向上に向けて取り組みをしている。		

15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	待機期間中から自宅を訪問し、面接を行いながら本人と対話するなど、顔なじみの関係を構築できるように努力している。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	待機期間中においても定期的に家族に連絡し、相談に応じている。また自宅に訪問し介護者の質問や相談に応じるなど、信頼関係づくりに努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安易にホームの入居を勧めるのではなく、相談内容を踏まえてニーズを探り、必要に応じて自法人及びグループ法人が運営する各種介護施設、在宅介護サービス並びに他の事業所、公的なサービスなどと連携し、対応している。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員の協働作業でおやつづくりや作品づくりを共に行い、楽しみを共感している。また誕生日会では入居者と一緒に手作りケーキをつくり共にお祝いしている。		
19		○ 本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加のおやつバイキングや食事会での家族交流、意見交換会を開催するとともに、毎月グループホーム新聞を作成し、主介護者はもとよりその他の希望される家族にも送付し、日常の様子をお知らせしている。		
20	8	○ 馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者ごとに担当職員を決め、本人や家族から情報収集を行い「行きたい所個別支援」を実施するなど、本人の馴染みの場所を大事にしている。	馴染みの方がホームを訪れたり、家族協力のもと、知人に会いに行かれています。又、個別支援で馴染みの場所に行かれたりと馴染みの人や場所との係わりを損なわない支援をされています。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活においても、一人、ひとりが孤立しないよう、役割がもてるよう支援している。また遠足などのイベントの時はグループ分けにも配慮している。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も家族から連絡や相談があり、できる限りフォローし、相談に乗るなど支援している。		

その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行事では利用者の表情、感想を大切に、それらを行事計画書兼実施記録に記入し、次回の計画に活かせるよう取り組んでいる。	入所前のアセスメントで本人、家族の希望や意向を把握されています。又、日常の会話などでも意向の確認を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	待機期間中から自宅面談を行い、情報収集を行っている。また入居時には生活歴やホームでの生活における希望を聞くなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を個別の支援経過記録に記録している。また入居者の心身の変化については、変調の早期発見のために朝の申し送り後にバイタルの確認を行い状態について確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員によるケアカンファレンスと家族参加のケアカンファレンスを行い多くの意見を収集し、3ヶ月ごとの介護計画見直しを行っている。また目標が達成され、計画の充実を図るよう努めている。	3ヶ月に一回職員によるカンファレンスと家族参加のカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを行っています。又、状態に変化があった場合はその都度話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援計画記録以外にも日々の申し送りにより情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。またグループホーム会議においてもケア内容についての話し合いを行い、平成26年度からは職員担当制のカンファレンスを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスにあるリハビリ機器や通信カラオケの高齢者向けコンテンツを活用したカラオケ体操を実施するなど運動量の増加に努めるとともに、単独事業所では難しいような行事に参加できる機会を設けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に活用していた社会資源を把握し、個別外出支援の際に訪問するなど、生活の継続性を尊重している。なお、ホームとしては地域ボランティアや慰問等の受け入れを行い、入居者の楽しみの支援に繋げている。		

30	11	○ かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談の上、受診や往診の医療機関を選択してもらっている。また、かかりつけ医と関わりが薄い入居者には特養付属診療所や協力病院で対応している。認知症専門医の往診を希望されている方もあり、精神的ケアの支援も行っている。	以前から利用されている、かかりつけ医の受診ができ、利用者・家族の希望に添われ、また通院介助も行われています。かかりつけ医のいない方には、協力病院や特養付属の診療所で2週間に1度診察を受けられ、希望に応じて認知症専門医の往診もあり、適切な医療を受けられる支援がされています	
31		○ 看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設の特別養護老人ホーム並びに付属診療所の看護師の応援体制を整えており、急変時のみならず普段から相談、応援してもらえる関係である。		
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療が必要な場合は病院に付き添い、入院の準備手続き、情報提供を行っている。また入院時にも面会し、安心できるよう支援している。		
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明時にホームの方針を伝えるとともに、入居後は家族交流会や運営推進会議など家族との意見交換の場において方針を繰り返し説明し、理解を得ている。なお、実際に入居者が重度化した場合は、医療機関や他の施設入所サービス事業者など関係機関と連携し、不安を取り除くよう支援している。	入居前の説明で重度化した場合や終末期を行えないことを説明し、早い段階から話し合いを行われています。また重度化した場合は利用者・家族と話し合い、併設の施設や他の入所サービス機関と連携され、利用者・家族の希望に添われた支援がされています。	
34		○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の研修の一環で救命救急の研修を実施し、心肺蘇生等について学んでいる。またグループホーム内の勉強会においても急変時の対応について学習している。		
35	13	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加するとともに、建物全体が地域住民の避難所的な位置づけとなっており、地域防災にも貢献している。年2回の避難訓練、また運営推進会議の内容においてグループホームにおける非常災害時対応についてDVDを視聴し、緊急時に適切な対応のできる体制づくりに努めている。	マニュアルを作成し、年2回消防所の立ち会いのもと、避難訓練がおこなわれ、運営推進会議でも災害について話し合いがされ、職員の意識付けにも力を入れられています。併設の特養とともに備蓄も行われています。また地域の防災訓練にも参加され、建物全体が地域住民の避難所的な位置づけになっています	

・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者を人生の先輩として尊重し、なじみの関係であっても言葉遣いや対応には誇りやプライバシーを損ねることのないように徹底している。また毎月開催する行動制限廃止会議では職員の接遇、言葉遣いについての話し合いをしている。	マニュアルが作成されており、毎月会議が行われ、職員に利用者の人格を尊重し、利用者の尊厳を守ることを意識付けされています。また職員は利用者の思いに添ったケアや、自己決定しやすい言葉かけをされており、誇りやプライバシーを損ねない支援がされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	平成25年4月より導入した公文学習療法において、実施時には職員と入居者のコミュニケーションを増やしながら、本人の思いや希望を表出出来る場面を提供している。		
38	15	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の日課の中で、その人のペースに合わせた声掛けを行っている。行事の参加においても希望を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1ヶ月に1度は訪問美容にきてもらい本人の好み髪型になるよう支援している。衣服はできるだけ自分で選択できるよう声掛け支援している。		
40	16	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、調理においても入居者の能力に応じて職員と一緒にやっている。また食事の配席においては、気の合う入居者同士になるように配慮している。	利用者の方は食事の準備や片付け、食材を切ったりと出来ることを見つけ職員と一緒に行われています。また外食や、お弁当を持つの外出、テラスでの食事などもされており、また、職員も同じ物を一緒に食べられ、利用者が楽しく食事が出来る工夫がされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事は入居者と職員が同じテーブルでいただき、その方のペースに合わせながら召し上がっていただく工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの状態に合わせて支援している。また家族の希望で訪問歯科による口腔ケア指導を受けている方もいる。		

43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄能力と自尊心に配慮し、また排泄記録を取り個々の排泄リズムを理解しながら、排泄失敗の不安を軽減する支援を行っている。	排泄記録により、利用者一人ひとり排泄能力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切にされています。またトイレも手すりなどがあり、使用しやすい環境になっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排便ができるように運動や水分量に気をつけている。便秘薬の使用調整は医師と相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	月火木金と週4回入浴サービスを提供しており、本人、家族の希望に沿った支援をしている。また、平成26年度は新たな取り組みとして1Fの大浴場での入浴支援を行い、入浴を楽しむ機会を増やしている。	月火木金週4回入浴サービスを提供されており、入浴日を決めず、利用者のその日の体調や気分に合わせて入浴介助を実施されています。入浴出来ない時は、着替えや清拭が行われ清潔を保つ支援がされています。また併設の1Fの大浴場での入浴支援もあり、楽しく入浴が出来る工夫がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室の室温管理や照明は1人ひとりの好みに応じ対応している。夜間不眠時は無理に入眠を促さずに可能な限り職員と一緒に過ごし安心できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な受診や往診時には症状の変化を記録し、アムリタ付属診療所の医師、看護師に情報提供し、服薬の調整を行っている。また1人ひとりの服薬ファイルを作成し職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的にカラオケ体操、歩行訓練、リハビリマシン活用による運動の実施により運動不足を解消するとともに気分転換を図っている。また週3回の公文学習療法を取り入れている方もいる。		

49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な外出の希望については重度化に伴い減っている方もあるが、家族や地域の協力を得ながら、行きたい所に個別で外出支援している。また随時買い物に出掛ける方もいる。	日常的な外出は重度化に伴い減っているようですが、買い物や散歩など出来る範囲で行われています。また、年1回は利用者・家族と相談し、行きたい所へ個別の外出支援をされたり、地域の行事にも参加されています。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭管理している方にも、使用時は自分で支払うように職員が支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	海外で生活している家族もあり、毎年送られてくる年賀状を楽しみにされている。またホームの電話による支援はもとより、本人、家族希望で携帯電話を所持され、毎日家族への電話連絡を支援している方もいる。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール中央には吹き抜けがあり、全体的に窓が大きく採光もよく開放感のある環境である。また居心地よく過ごせるように空調設備により管理している。	全体的に窓が大きく、ホール中央には吹き抜けがあり採光もよく居心地良く過ごせる空間になっています。また廊下には利用者の作品が飾られたり、広々としたテラスで家庭菜園をされたりと、楽しむ工夫がされています。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が囲んで話ができるように、リビングのソファを配置している。またトイレ前には、他者が使用していても座って待てるように工夫している。グループホーム3Fテラスにはベンチを用意し外気を楽しむこともできる。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、その方の状態や好みに合わせた居室づくりをしている。また転倒などの事故のリスクのある方は居室の整理を行い事故防止に努めている。	居室への持ち込みの制限はなく、利用者の馴染みの物など、利用者・家族と相談し配置も決められています。居室の窓も大きく、採光よく明るく、また居室には利用者の作品や担当職員からの誕生日の作品なども飾られ、居心地の良い空間になっています。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の部屋の表示については文字のみならず、絵などにより、自分の居室がわかるようにしている。またバリアフリーにすることで、下肢筋力が低下された方にも自立した生活が送ることができるようになっている。		

アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	ほぼ全ての利用者と 利用者の3分の2くらいと 利用者の3分の1くらいと ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族が 家族の3分の2くらいが 家族の3分の1くらいが ほとんどできていない